

アフリカ豚熱を 絶対に入れない

水際での最前線は動物検疫所



空港では海外からの飛行機が着くたびに、動物検疫所のスタッフはスタンバイ。1機で400名が到着することもある。バゲージクレーム(入国者がスーツケースなどの手荷物を受け取る場所)のまわりでは、動物検疫所の家畜防疫官が、アフリカ豚熱などの発生国から到着した旅客に対して、肉製品の所持に関する口頭質問を実施。さらに動植物検疫探知犬が手荷物の匂いを嗅いで回り、肉製品などの臭いを発見するとお座りをして合図。家畜防疫官が手荷物の中身をチェックして、持ち込むことが出来ない肉製品などは廃棄。知らずに肉製品などを持ち込む人も絶えません。加工されたもの、加熱されたものもダメ



動物検疫所の職員の皆さんは
「違法な肉、肉製品を国内に入れない」のために、
眼を光らせ、日々工夫を凝らし、働いてくれています。

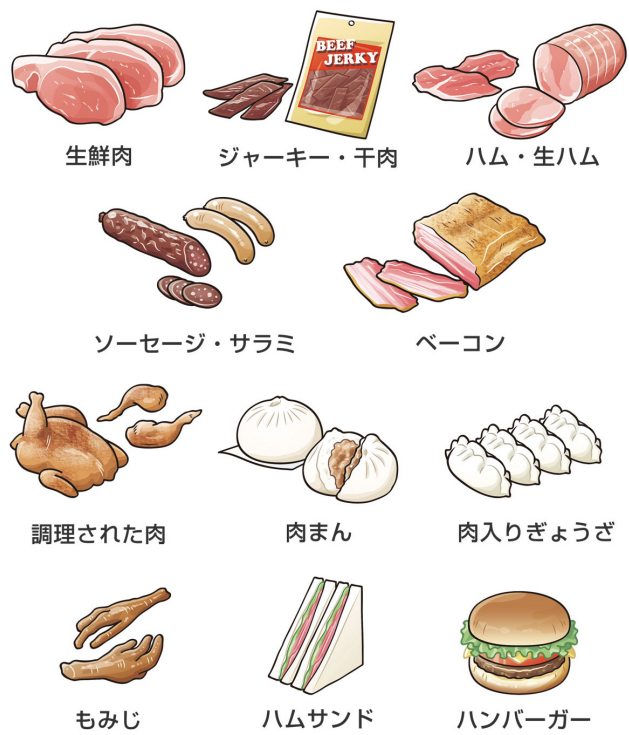
- ▶ **動植物検疫探知犬も頭数を増やしています。**
2頭 ⇒ 53頭 ⇒ 140頭 (平成17年 ⇒ 令和元年 ⇒ 令和2年)。
- ▶ **家畜防疫官の権限を強化し(家畜伝染病予防法改正)違法な畜産物の持込への対応を厳格化しました。**
 - 質問・検査権限: 入国者に対して肉製品等の有無を質問・検査する。
 - 廃棄権限: 発見された違反畜産物を廃棄する。
 - 厳罰化: 罰金を300万円(個人)、5,000万円(法人)に引き上げ。
- ▶ **違反者のパスポート情報等をデータベース化し、悪質な場合は警察に通報しています。**
- ▶ **国際郵便物の検査を強化しています。**
- ▶ **各空港・海港における靴底消毒及び畜産関係車両の消毒の徹底、船舶・航空機の食品残渣の適切な処理について、事業者へ指導を継続的に行っております。**
- ▶ **新たな取組、広報の充実など、日々工夫を凝らしています。**



持ち込み禁止のもの(一例)



写真:農林水産省動物検疫所提供



出典:政府広報オンライン(<https://www.gov-online.go.jp/useful/article/202002/1.html>)

水際・農場の最前線でより一層の取組を!

それでも、**全ての荷物をチェックすることは不可能です!**

だからこそ、

農場にウイルスなど病原体が入らないように、

豚を飼育する現場では、豚を守るために

農場の防疫に取り組んでいます。



動物検疫所と養豚生産者が日本の養豚、日本の「食」を守っています。

見て知って
データ

順位	空港名	都道府県	2019年1月~12月	日平均
	国際線降客数	全国	5,671,385人	15,538人
	国際線着陸回数	全国	314,190回	860回
1	成田空港(東京)	千葉県	104,611回	287回
2	関西空港(大阪)	大阪府	78,954回	216回
3	羽田空港(東京)	東京都	44,429回	122回

国土交通省
令和元年 空港管理状況調査